

人権学習に取り組んでいます!

人権週間12/4~12/10

世界人権デー(12月10日)を最終日とする一週間は、人権週間とされています。鳥小でも、人権学習の集中週間として、さまざまな学習を展開しました。

人権標語や、人権作文への取組は、子どもたちにとっても馴染みのある活動となっています。今年も、時に保護者の方の力もお借りしながら、皆、一生懸命に考え、話し合うことができました。

人権標語 学年代表作品

1年	天笠 燈哉	『おもいやり いつもこころに わすれない』
2年	吉田 百花	『がまんしないで 自分の言いたいことは 言っていんだよ』
3年	岩本 蒼汰	『みんなの え顔が 未来の光』
4年	藤塚 葵	『差別なく 一人一人が 幸せに』
5年	荒木 愛翔	『泣かせない ぼくらが守る 君のこと』
6年	鈴木 優誠	『ちがうとこ あるのがみんな おなじとこ』



人権作文 学年代表作品

1年 高口 湊斗 『むしむしむらのなかまたちを見て』

むしむしむらのなかまたちを見て、だれかにやさしくするきもちが、すごくたいせつだとおもいました。だから、ぼくはいじめをしたくないとおもいました。これからもいじめや人がいやがることをぜったいにしません。おともだちにやさしくしてなかよくしたいです。

2年 星野 夏 『おじやる丸 ちっちゃいものの大きな力』を見て

おじやる丸は、水たまりにおぼれているアリをたすけてあげて、やさしいなと思いました。そのあと、おにたちがにげているときに木がたおれてきて、おにたちがつぶれちゃったから、小さい虫たちが木をどけようとしたけど、みんなはもちあげられませんでした。でも、おじやる丸がさいしょにたすけたアリたちが、おれいに手つだいにきてくれました。アリたちは、木をもちあげられないから土をほってたすけてあげたのもやさしいなと思いました。わたしは、このお話を見て、一人ではできないことがあっても、みんなで力をあわせればできることを学びました。また、アリたちのように自分にできることはなにかを考えてこうどうすることがたいじだと思いました。これからは、わたしも、小さい虫たちのように、こまっている人がいたらたすけていきたいと思いました。

3年 平野 里依紗 『ぼくの気持ち きみの気持ち』

道とくの時間で「いじめ」について学習をしました。じゅ業では、なか間外れをされて悲しんでいる子犬のシバオがいました。シバオはそうじをさぼっていたブルたろうを注意したことで、いじめを受けることになりました。そして、大きな石の上で二人が入れかわり、おたがいの気持ちがわかるというお話でした。わたしはこの話を聞いて、いじめやなか間外れをしていたブルたろうもつらいことがあったんだなと思いました。でも、つらいことがあったとしても、人をいじめて他の人にも悲しいえいきょうをあたえるのはよくないと思います。

わたしは、前に、いじわるをされてしまったことがあります。その時、〇〇さんが「大じょうぶ?」と声をかけてくれたので助かりました。とても悲しかったけど、友だちがたくさん助けてくれるので、安心していました。これからは、わたしもだれかがいじめていたり、なか間外れにされていたら、いじめをしている子には、何でそうしているのかを聞きます。そして、いじめられている子には、「大じょうぶ?」と声をかけて助けます。

4年 鈴木 杏 『ハンセン病と家族の夢』

私は人権学習の時に、「ハンセン病と家族の夢」という動画を見ました。この話をまとめると、昔は、ハンセン病にかかった人たちがむりやり「りょうよう所」につれて行かれて、子どもが産めなくなるように手じゅつをされたり、働かせたりしていました。でも、ハンセン病をなおす薬ができたあとも、50年間りょうよう所にとじこめたそうです。そのあと解放された人がさいばんをおこしたことをきっかけに、ライ予防法はまちがっているときとめられて、やっと自由になったという話です。このビデオを見て一番心に残ったところは、病気になっただけで差別されていたところでした。具体的にいうと、ハンセン病にかかっただけでりょうよう所につれて行かれていたことです。わたしは、ほかのテレビでも、同じように差別されていた人を見たことがあります。その人が、手や足が病気で短いからといって差別されているのを見て、すごく心がいたみました。私はこの学習で、見た目や病気などで差別をするのはよくないということが分かりました。これからは、人を差別しないようにして、草や花もふみつぶさないようにしようと思いました。

5年 竹田 姫夏 『めぐみ』を視聴して

私は「めぐみ」というアニメ動画を見た。拉致問題が、昭和の時代からずっと続いている問題だと知っておどろいた。めぐみさんの両親の言葉で「めぐみを見たのはそれが最後だった」というのがあり、切なかった。何もしていないふつうの女子中学生なのに、なぜ拉致されないといけないのか、かわいそうだと思った。親が娘を失っていて、その事実を受け止められないほど悲しそうにしている、とっても切ない。北朝鮮のことを憎まずに、娘や拉致された子たちをただ大切に思っているのがすごく良いなと思った。昔からずっと今でも続いている問題だから、いつかぜったいに解決して、拉致された子たちもむくわれる日が来るといいなと思った。そして、二度とこのような拉致問題などの理不尽な問題がない社会にしていきたいし、北朝鮮ともいつか仲良く助け合える関係になってほしいと思う。

6年 布施 結姫乃 『人権とは。』

人はみんな、楽しく学校に行きたい。だけど、いじめにあっていたら、楽しく学校に行けないし、味方がいないと思って不安になってしまう。ちょっと悪口を言っただけと書いていても、いじめやけんかは起こる。でも、そのちょっとが、相手にとって一生心に残って、一生引きずってしまうことがある。だから、何かを言う時は、言ったら相手はどうなるかを考えてから言葉を言わないといじめやけんかの原因になるということだ。もし、言ってしまったら、すぐに謝らないといけない。すぐに自分が言ったことを理解して謝らないと言い合いが続いて、もっとけんかが大きくなってしまふ。けんかが起きてしまったら、相手と一緒に、何が悪かったのかを話し合うことが大切だと思う。人が本当に間違えて言ったことなら、間違いだったことと信じて受け入れるのが一番いい。もし、けんかになりそうな人たちが目の前にいて、自分が最初から最後までその話を聞いていたら、その人たちの互いの悪かった所を考えて、伝えて、仲直りにつながったらいいなと思う。もし、自分がその立場になってしまった時は、相手の気持ちをよく理解しようと思う。

人権学習 振り返り

いじめや虐待、SNS上の人権侵害、病気や障がい等を理由とする偏見や差別など、様々な問題が依然として存在しています。また、今この時も戦禍にあって、人権を奪われている人々が存在することも事実です。これらの問題の解決には、私たち一人一人が諸問題を「誰かのこと」ではなく「自分ごと」として捉え、学び続けることが不可欠であると考えます。

子どもたちの感性は、とてもやわらかで繊細！ 児童会で進めた人権集会では、代表委員の児童がデジタル資料を駆使して『偏見のめがね』をはずし、互いのありのままを受け入れて生活しよう、と呼びかけてくれました。

大人も彼らに対して『あなたは、今のそのまま、かけがえのない大切な存在』と伝えていきたいと思ひます。誰一人全く同じ人間はいない。違うからこそ素敵で素晴らしい。人とは違う「自分の良いところ」を大切に「友達の良いところ」も大切にする。その気持ちをもって生活したいものです。毎日「あなたって本当に素敵」「素晴らしい」「格好いいよ」「すごいよ」「頑張ったね」とプラスの言葉をかけていきたいです。たとえ結果が大人の期待するものでなかったとしても、取組のプロセスの姿を前向きな言葉で褒めてもらっている子は、くじけないで頑張る強い気持ち、自尊心（自分を大切にすること）を手に入れやすくなると思ひます。また、マイナスな部分ばかりを見つけ「だめだね」「どうしてできないの?」「○○さんの方が～ね」などと結果を否定され人と比べられてしまふは、自分のよさを見失ってしまひます。互いに『違い』を受け入れ、「自分の良いところ」を大切に、「他の人の良いところ」を見付け合いながら生活していけるよう、『人権感覚』を育てていきたいと思ひます。

鳥小は、日頃の保護者や地域の皆様の子供達へのご声援が温かく、有り難いです。